

学校環境の整備（小中学校コンピュータ整備、学校支援員の配置）

アナ： 『市長が語る 2023 三島』第10回の今日は、学校環境の整備について、お話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： さて、GIGA スクール構想がはじまり、三島市ではタブレット型端末の iPad を小中学校のすべての児童生徒に配布していますが、子どもたちの学びはどのように変わってきましたでしょうか。

市長： 三島市では、スマートフォンのように、どこでも通信が可能なモデルの iPad にしましたことから、早期に家庭への持ち帰りが進んだことが挙げられます。

また、体育の授業、野外学習などにおいても利用できるため、子どもたちが創意工夫をしながら iPad を積極的に活用していると聞いております。

加えて、iPad と小中学校の全学級に導入済みの電子黒板との連携により、より理解しやすい授業が行われているところでございます。

アナ： 授業の進め方が大きく変わってきそうですが、現場の先生方も新しいことに対応していくのにご苦労があるのではないのでしょうか。

市長： ICT機器を活用した授業を実現するために、現場の先生方は、ICT機器やシステムの使い方等について、先生同士で研修を行ったり、活用の方法についての情報を共有することなどをしてくださっておりまして、先生方のICTスキルは着実に高まってきていると感じております。

今後も、多忙な先生方の負担を増やさずに、引き続き、iPad を活用していただくための支援が重要と考えております。

アナ： 具体的にはどのような支援をしているのですか。

市長： 現在、授業以外の先生方の負担を軽減するため、民間企業等で多くの導入実績があるサイボウズ社の kintone（キントーン）という業務改善システムを導入いたしまして、ペーパーレス化などの事務の効率化を進めております。

さらに、今年度は、保護者の皆様が、毎年、紙で提出している家庭環境調査票をパソコンやスマートフォンでシステムに入力する方法に変更することで、教員と保護者双方の負担の軽減を進めます。

アナ： 今後も学校のDXが進み、先生が子どもたちと向き合う時間の確保につながればよいですね。

ところで、小中学校での子どもたちの支援の一つとして、学校支援員が配置されているとお聞きしました。

市長： はい。三島市では小学校1年生やその他の低学年の子どもが円滑に集団生活へ

適応できるようにサポートするため、また、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子どもを支援するため、小学校1年生全クラスをはじめ、小中学校に学校支援員54人を配置しております。

アナ： 具体的にはどのような役割を担っているのでしょうか。

市長： はい。担任や授業の先生の学級全体への指示を聞くだけでは、すぐに活動に取り組むのが難しいお子さんの補助をしたり、個別の学習の際に、わかりやすく問題を説明したりするなど、子どもたちを補助する仕事をしています。

アナ： このほかに、小学校の学校支援員として看護師と介助員が配置されているそうですね。

市長： はい。医療的ケアを必要とする子どもを支援するための看護師を3名配置しています。また、学校生活の中で介助を必要とする子どもを支援するため、介助員2名を配置し、その子の状況に応じた学習環境の充実を図っております。

アナ： さらに、今年度から、学校に「校内支援室」を設けるとお聞きしましたが、この校内支援室は、どのようなものなのでしょうか。

市長： 中学校において、教室での学習に困難を伴う生徒の学習支援などを行うもので、今年度、まずは3校に整備します。

校内支援室に、学習指導など行う指導員を配置し、子どもたちの学習環境の充実を図ってまいります。

アナ： このような支援の仕組みが学校にあることで、それぞれの子どもたちに応じたサポートができるようになり、子どもたちにとっても、保護者の方にとっても安心ですね。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。